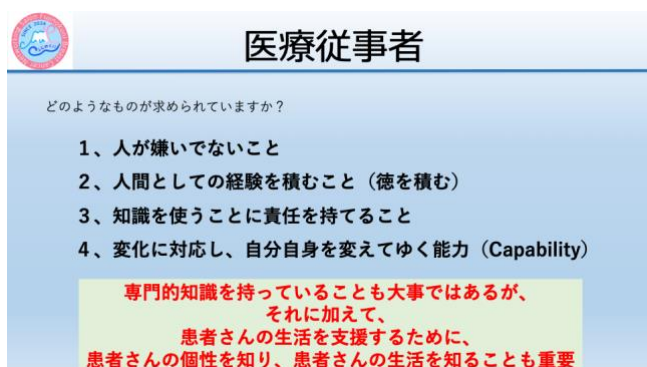


～ 理事長だより ～ Vol. 7

先日、県立小山高校を訪問しました。

9月中旬、乳がん看護認定看護師1名と共に、静岡県立小山高校を訪問し、医療職を目指している高校生を対象に、命の大切さ、医療職に就くための、心構えなどの話をしました。

小山高校は、御殿場市の隣町、小山町にあり、足柄駅が最寄駅で、可愛い「金太郎のモニュメント」がありました。金太郎の町、さすが、です。緑豊かで、久々に、自分たちは自然の中で生きていることを実感しました。



医療従事者

どのようなものが求められていますか？

- 1、人が嫌いでないこと
- 2、人間としての経験を積むこと（徳を積む）
- 3、知識を使うことに責任を持てること
- 4、変化に対応し、自分自身を変えてゆく能力（Capability）

専門的知識を持っていることも大事ではあるが、
それに加えて、
患者さんの生活を支援するために、
患者さんの個性を知り、患者さんの生活を知ることも重要

授業を行う視聴覚室に約 20 名の医療職を目指す生徒さん達が、私語もなく、緊張の面持ちで待っていてくれました。

担当教官の挨拶ののち、最初に私の方から、職業柄、命を扱う尊さにつき、私の思うところを伝えました。皆、神妙な面持ちで、熱心に聞き入っ

てくれました。その後、がんという病気についての簡単な説明を行い、早期発見、早期治療の重要性、自分の命は自分で守る大切さ、1日1日を大切に過ごして幸せな人生を送ってほしい、というメッセージを伝えました。

続いて、乳がん看護認定看護師さんより、看護職の種類、日常業務、看護職を目指す上で大切にすべき事柄につき、解説してもらいました。半数くらいが看護師を目指すとのことで、他に、歯科衛生士、柔道整復師、保健師などに就きたいと、皆、明確に将来ビジョンをもっており、非常に感心しました。



一通り、我々の講義を終え、みんなから質問を受けました。どういう人材が求められているか？助からないと分かった患者さんにどう接していけばいいのか？熱心な質問を沢山受け、みんなの熱い気持ちを感じ取りました。この純粋な心を持ち続け、人の痛みがわかる人材に育ってくれることを切に願いながら、授業を終了しました。

将来ある、この若人たちに、幸あれ！

NPO 法人 ふじのくに乳がん交流サロン

理事長

西村 誠一郎

